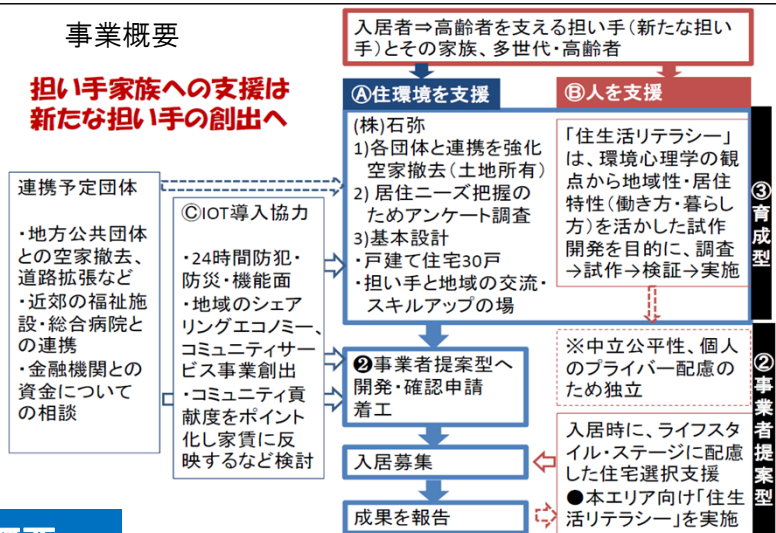


介護、医療の担い手が安心して暮らすことができる住宅や環境整備を目指して、居住者の住生活リテラシー向上に資する調査検討を実施する。

- 大仙市においては、若者の人口流出や高齢化による担い手不足により、現役の介護士や看護師の負担が大きく、その家族の生活にも影響がでている。
- 本提案は、高齢者を支える担い手が家族との日常生活に不安なく、継続的に働きやすい住宅等の整備に併せ、居住者の住生活リテラシー向上を目指し、事業実施に向けた基本計画の検討、地域特性を把握するためのアンケート調査等を行うものである。



想定される「住生活リテラシー」

中立公平な立場から 入居者へ「個別」に実施
「暮らし・働き」を想像⇒地域に「つながる」意識を備える

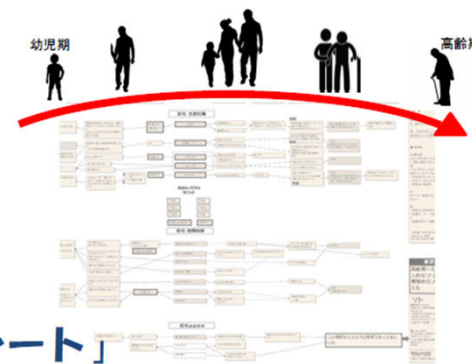
手法は、環境心理学の観点からパーソナル・コンストラクト理論(臨床心理学)に基づき、ナラティブ的アプローチ(物語)に実施
→ニーズ把握調査結果を基に、集まって住むこと(個から集合へ)のプラス・マイナス面、地域性(コミュニティ意識・風土)、居住者特性としてライフワークバランス、担い手創出などのプログラムをリテラシー反映し、試作をPDCAによって完成

事業概要

代表提案者	株式会社石弥
共同提案者	株式会社Gaudiy、株式会社 石弥(東京事務所)
事業実施場所	秋田県大仙市
事業実施内容	住宅・施設の計画検討等、入居者支援として「住生活心理リテラシー」の開発
事業実施期間	令和元年12月～令和2年9月



※これまで
評価グリッド法を活用



写真・カード遊びによる「物語シート」
⇒ 自身と家族の将来像を「予測→検証→住まい選択」

- 高齢者を支える担い手のための住宅建設、住生活リテラシーの拡充などについては、先進性が評価できる。
- 一方、本調査を通して事業の実現性や持続性を検証し、地域の実態にみあった事業の実施が期待される。